
2018年3月期 第2四半期 決算説明資料



2017年10月31日



本資料の如何なる情報も、弊社株式の購入や売却などを勧誘するものではありません。また、本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点での弊社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではなく、今後、予告なしに変更されることがあります。万が一この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、弊社は一切責任を負うものではありません。

1

用語の説明

用語	内容
PWB (Printed Wiring Board)	プリント配線板
SR (Solder Resist)	ソルダーレジスト (レジストインキ)
PKG (Package)	半導体パッケージ

2

当社グループの製品分野

分野	分類		性状	用途
PWB用 絶縁材料	リジッド	高機能品	液状	表層保護・絶縁用 SR材料
		汎用品		
	PKG		液状 ／ドライフィルム	
	フレキ		液状 ／ドライフィルム	
	ビルドアップ		液状 ／ドライフィルム	
その他 関連商材	その他		液状	マーキング・エッチング・めっき用材料 フラックス・溶剤等・導電性銀ペースト

③ 2018年3月期 第2四半期 トピックス

1

為替は想定レートと同水準に推移 ※2Q想定レート：111円/USD

2

販売数量はDFを中心に前年同期比で増加

3

通期連結業績予想を修正

4

医薬品事業子会社「太陽ファルマ株式会社」を設立

連結業績サマリ

単位：百万円

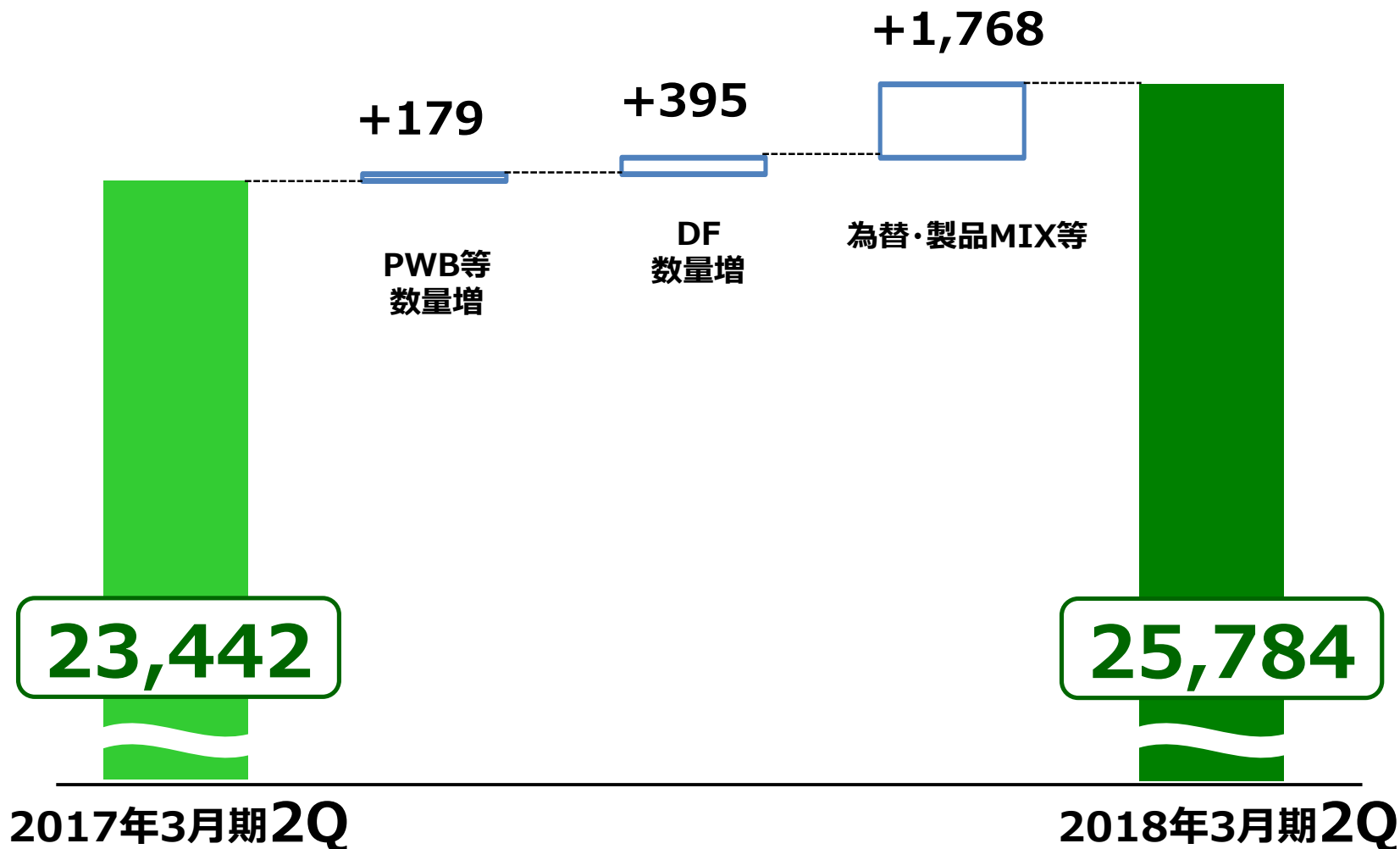
	2017年3月 第2四半期 累計実績	2018年3月 第2四半期 累計実績	前期比	増減率	2018年3月期 第2四半期（累計） 業績予想	達成率	2018年3月 通期 今回発表予想
売上高	23,442	25,784	+2,342	+10%	25,000	103%	50,000
営業利益	4,557	5,744	+1,187	+26%	5,200	110%	10,200
経常利益	4,602	5,690	+1,088	+24%	5,100	112%	10,100
親会社株主に帰属 する四半期純利益	3,623	3,998	+375	+10%	3,600	111%	7,000
円・USDレート	106	111			111	100%	108

5

2018年3月期 第2四半期 売上高（前期比）

売上高前期比分析

単位：百万円

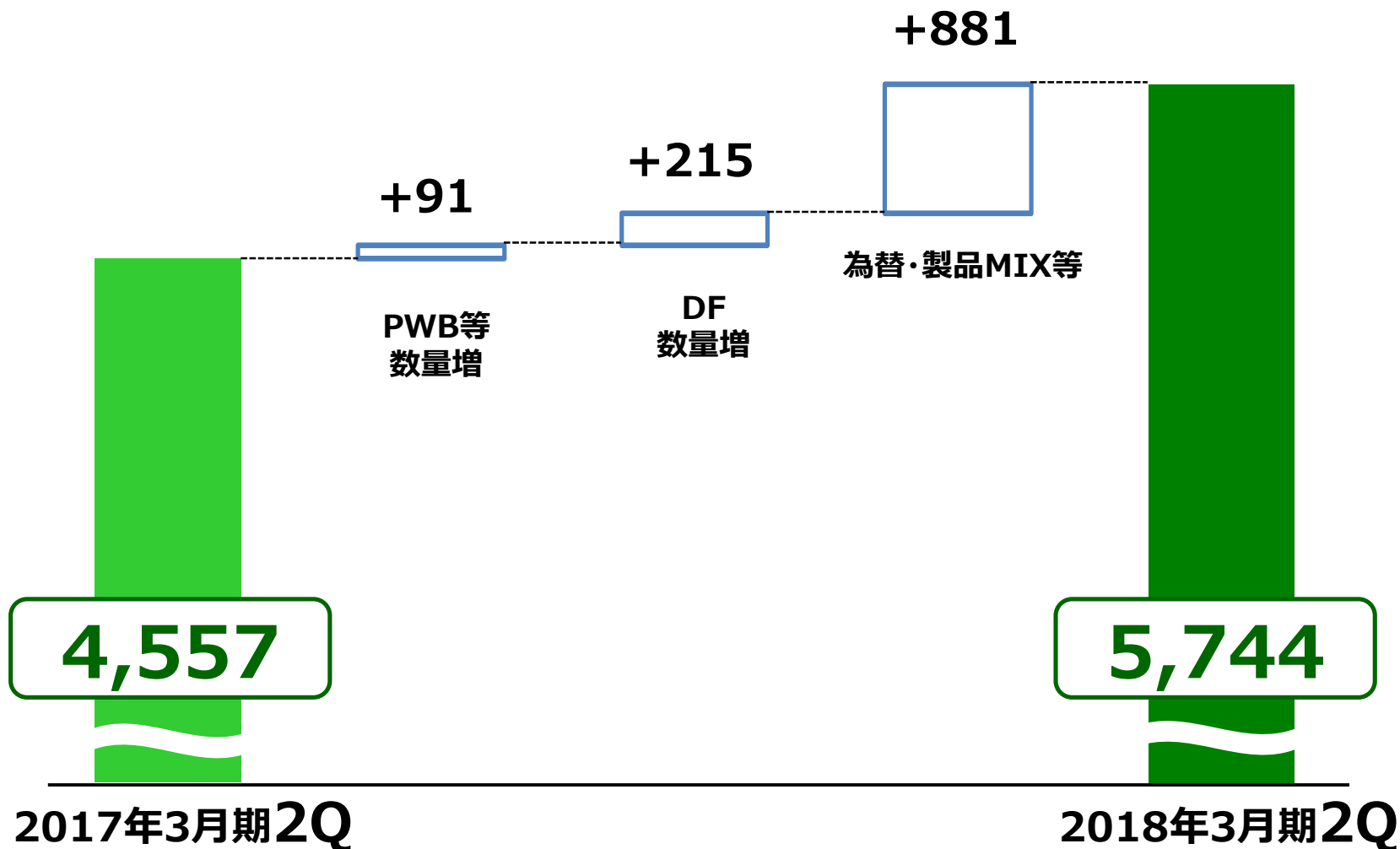


6

2018年3月期 第2四半期 営業利益（前期比）

営業利益前期比分析

単位：百万円

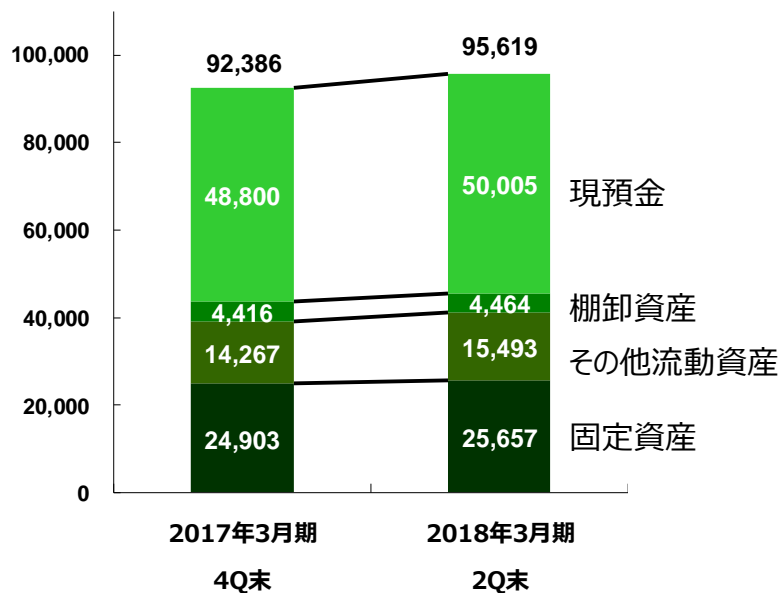


7 2018年3月期 第2四半期 BSの概況

BS前期比較

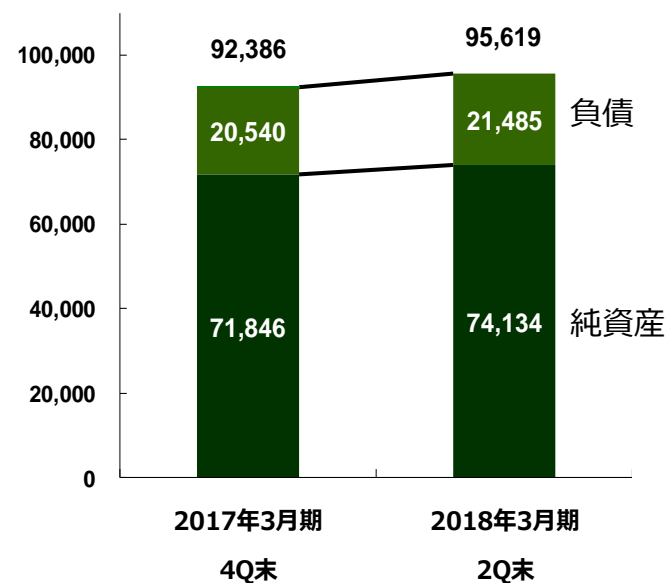
単位：百万円

資産



・堅調な販売および円安による外貨建て資産の増加

負債・純資産

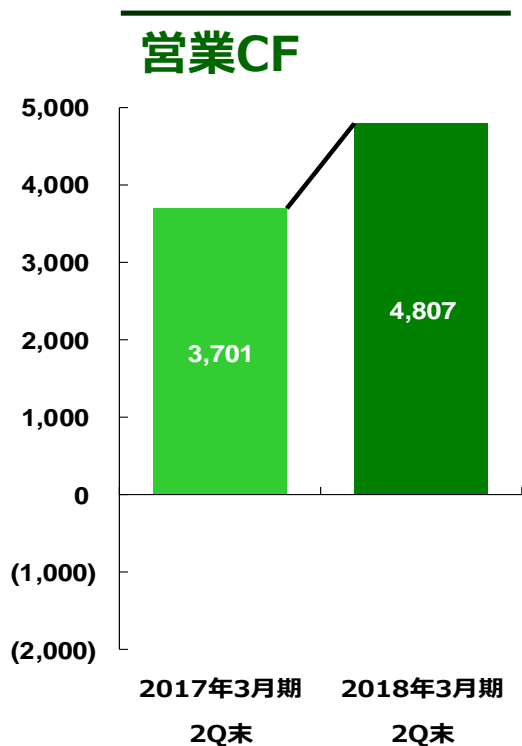


・短期借入金が増加
(為替リスクヘッジの為)
・利益剰余金の増加

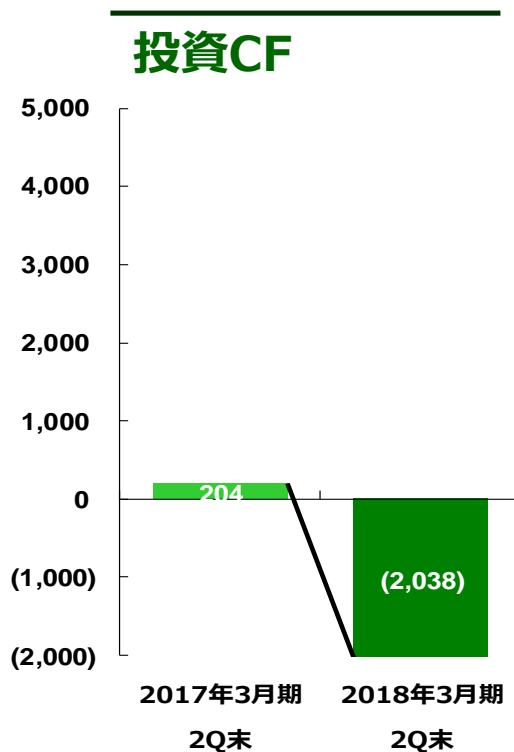
8 2018年3月期 第2四半期 CFの概況

CF前期比較

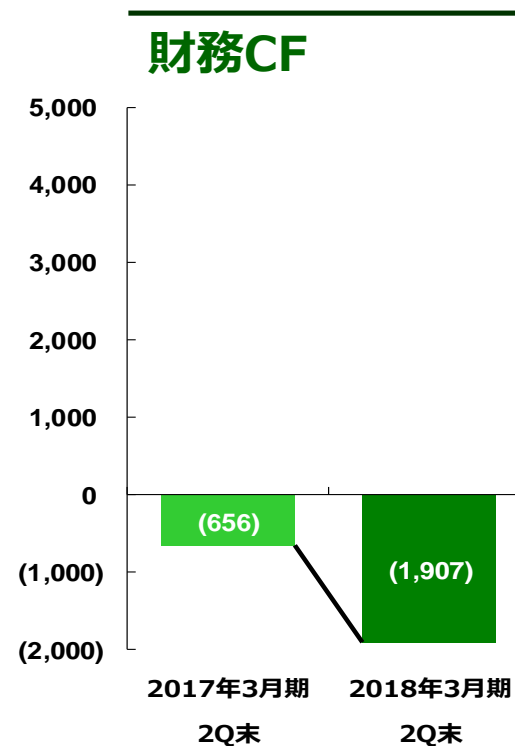
単位：百万円



・税金等調整前四半期純利益の増加



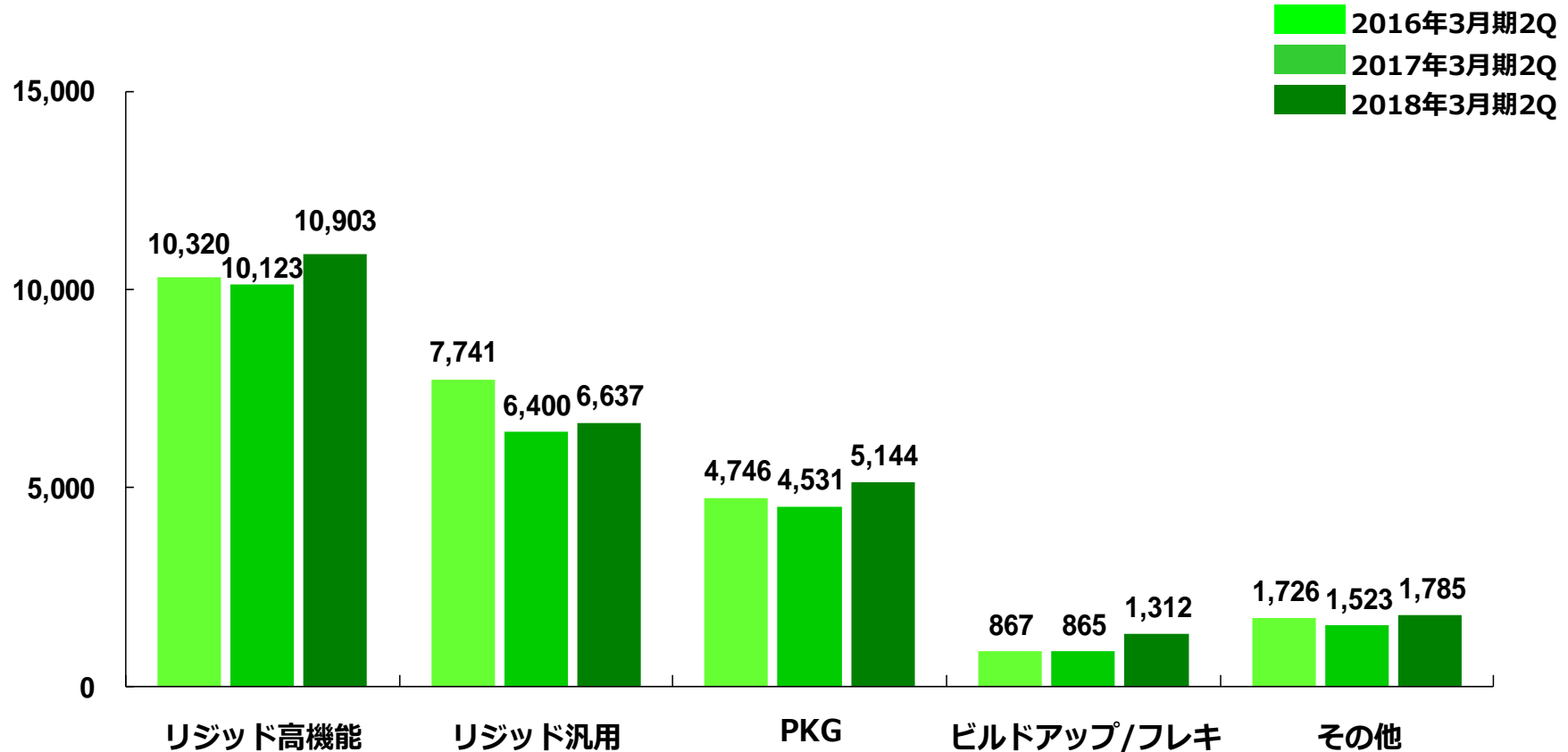
・前期:定期預金の一部解約
・投資有価証券の取得



・配当金の支払額の増加
・子会社株式の取得

製品区分別売上高

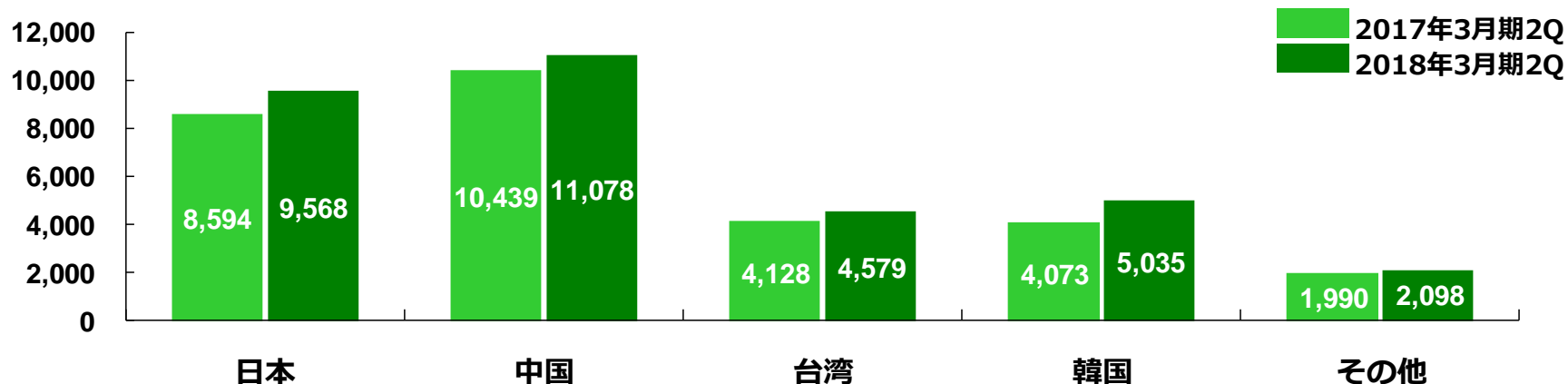
単位：百万円



※決算短信・有価証券報告書等に記載の「製商品品目別の販売実績」の分類と異なります。

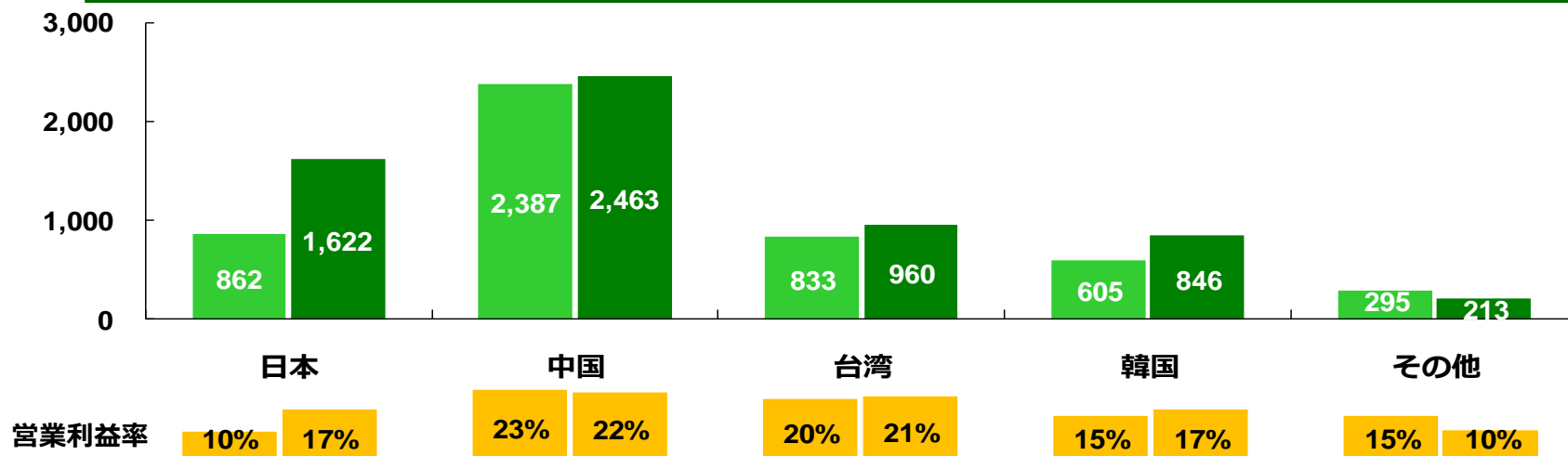
セグメント別：売上高 (グループ内売上含む)

単位：百万円



セグメント別：営業利益 (グループ内売上含む)

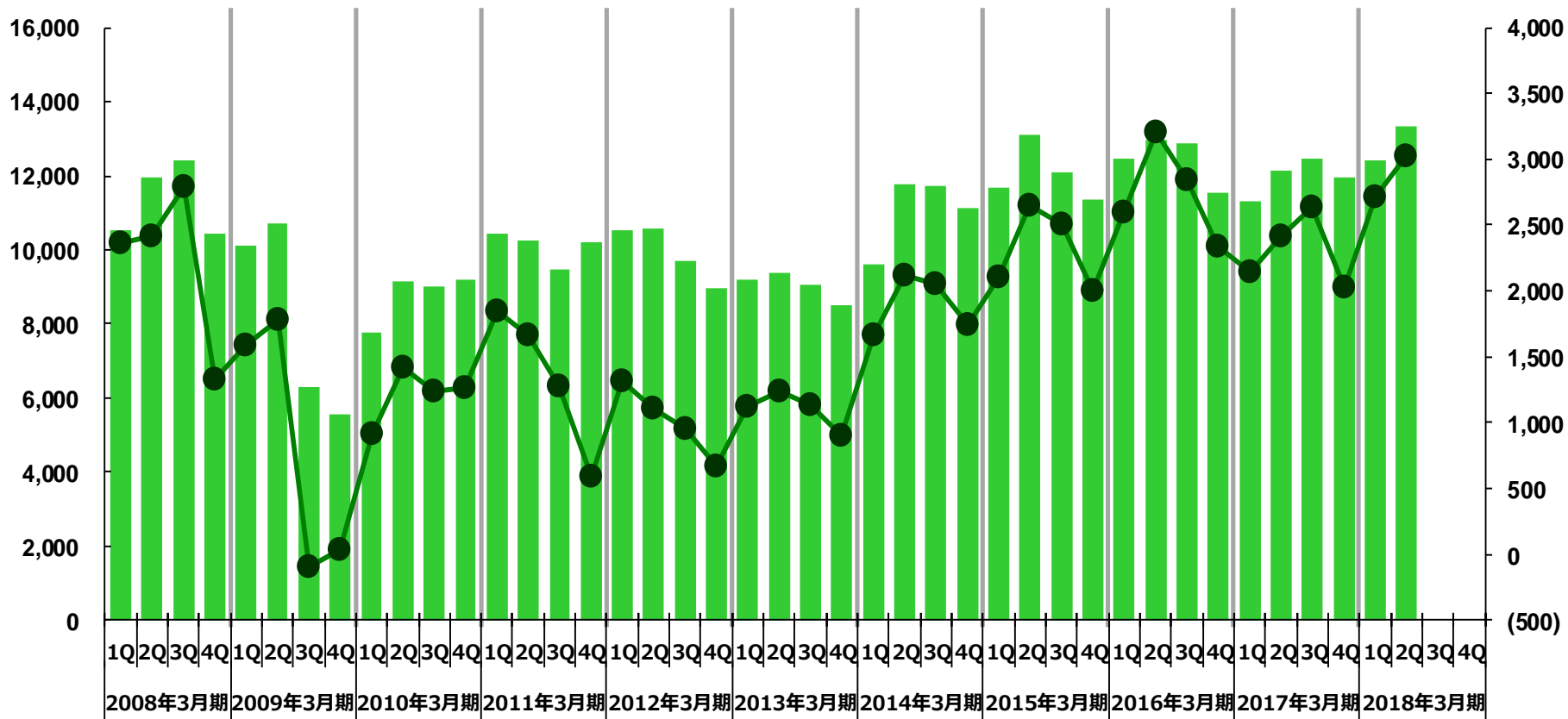
単位：百万円



四半期別推移：売上高/営業利益

単位：百万円

■ 売上高（左軸）
● 営業利益（右軸）



12 2018年3月期 連結業績予想の修正

連結業績予想の修正

単位：百万円

	2018年3月期 第2四半期 累計実績	2018年3月期 通期 前回 発表予想	2018年3月期 通期 今回 発表予想	増減額	増減率
売上高	25,784	48,200	50,000	1,800	4%
営業利益	5,744	9,200	10,200	1,000	11%
経常利益	5,690	9,100	10,100	1,000	11%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	3,998	6,400	7,000	600	9%
円・USDレート	111	106	108		

当初計画より需要が上回ったこと及び為替レートが想定より円安で推移した結果、2017年7月31日発表の業績予想を上回る見通しとなり、通期連結業績予想を上記のとおり修正

中期経営計画

14 中期経営計画 NEXT STAGE 2020

SRに大きく依存する事業構造からの脱却を図り、当社グループが持つ「化学」というキーワードを軸に、総合化学企業へと飛躍すべく、3ヶ年の中期経営計画「NEXT STAGE 2020」を策定

目標

収益構造

営業利益率 20%以上

収益性

ROE（自己資本利益率） 11%以上

株主還元

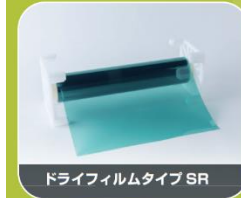
DOE（株主資本配当率） 5%以上

経営成績

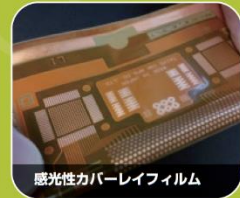
過去最高営業利益の更新

基本方針

- 1 SR の収益力強化
- 2 SR 以外のプリント配線板関連領域の拡充
- 3 医療・医薬品事業の立ち上げ
- 4 エネルギー・食糧事業の黒字化
- 5 基礎研究力の強化
- 6 DIC 株式会社との業務提携
- 7 M&A 戦略の遂行
- 8 CSR 活動の拡充
- 9 自律型人材の育成・活用



ドライフィルムタイプ SR



感光性カバーレイフィルム



医療・医薬品事業



水上太陽光発電



植物工場



研究所



協賛マラソン大会



事業所併設保育所



アマチュアスポーツ選手支援



地域ボランティア

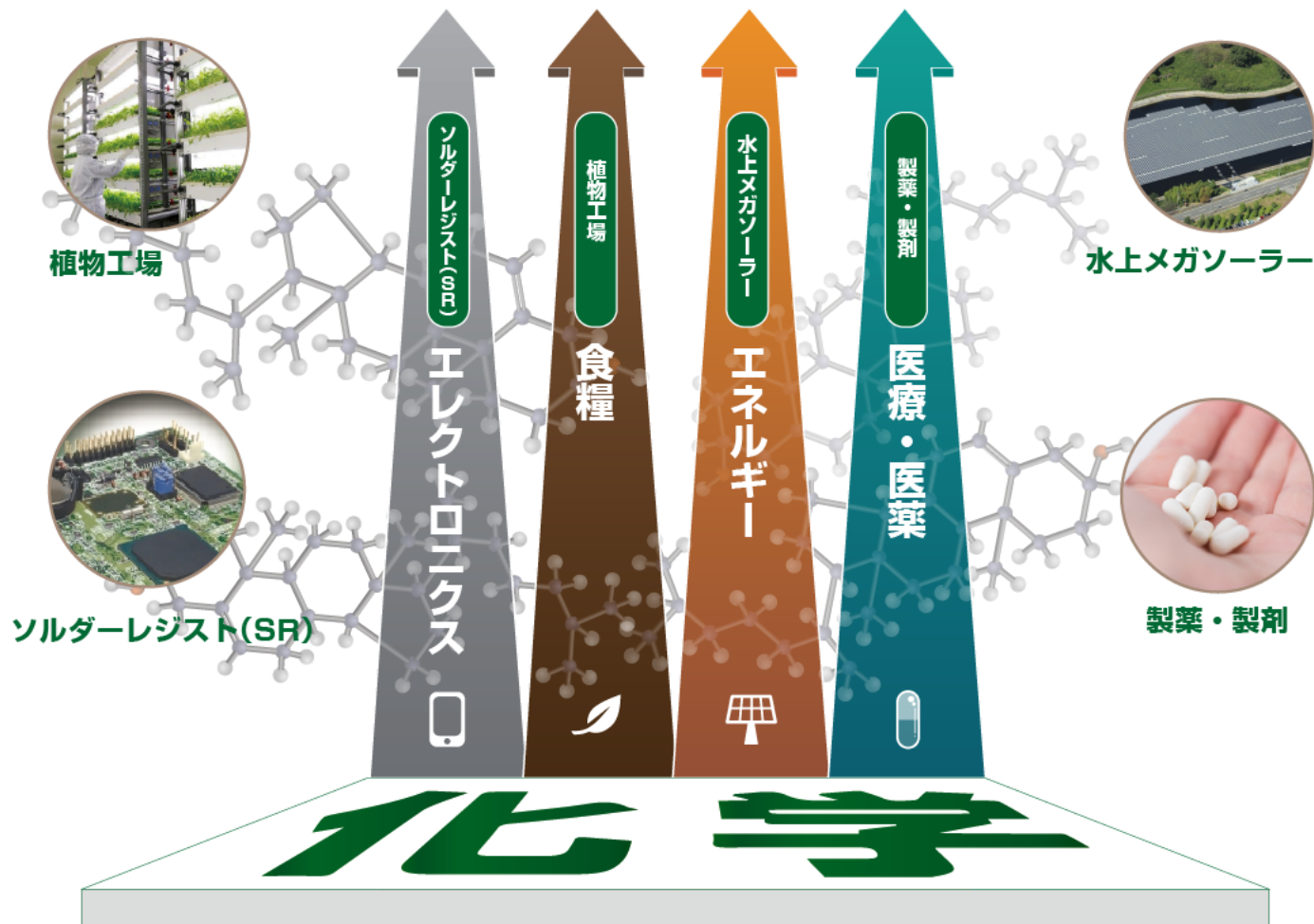
医療・医薬品事業

社員が誇りを持って働き、
化学の力で、世の中の為になるものを
生み出し続ける総合化学メーカーへ



ニッチトップからグローバル総合化学メーカーへ

当社は化学を基礎にエレクトロニクス分野で、事業を行ってまいりましたが、引き続き、化学を基礎に、今後成長が見込まれ、かつ、社員がやる気になる分野として、エレクトロニクスに加え、3つの分野を追加いたします。



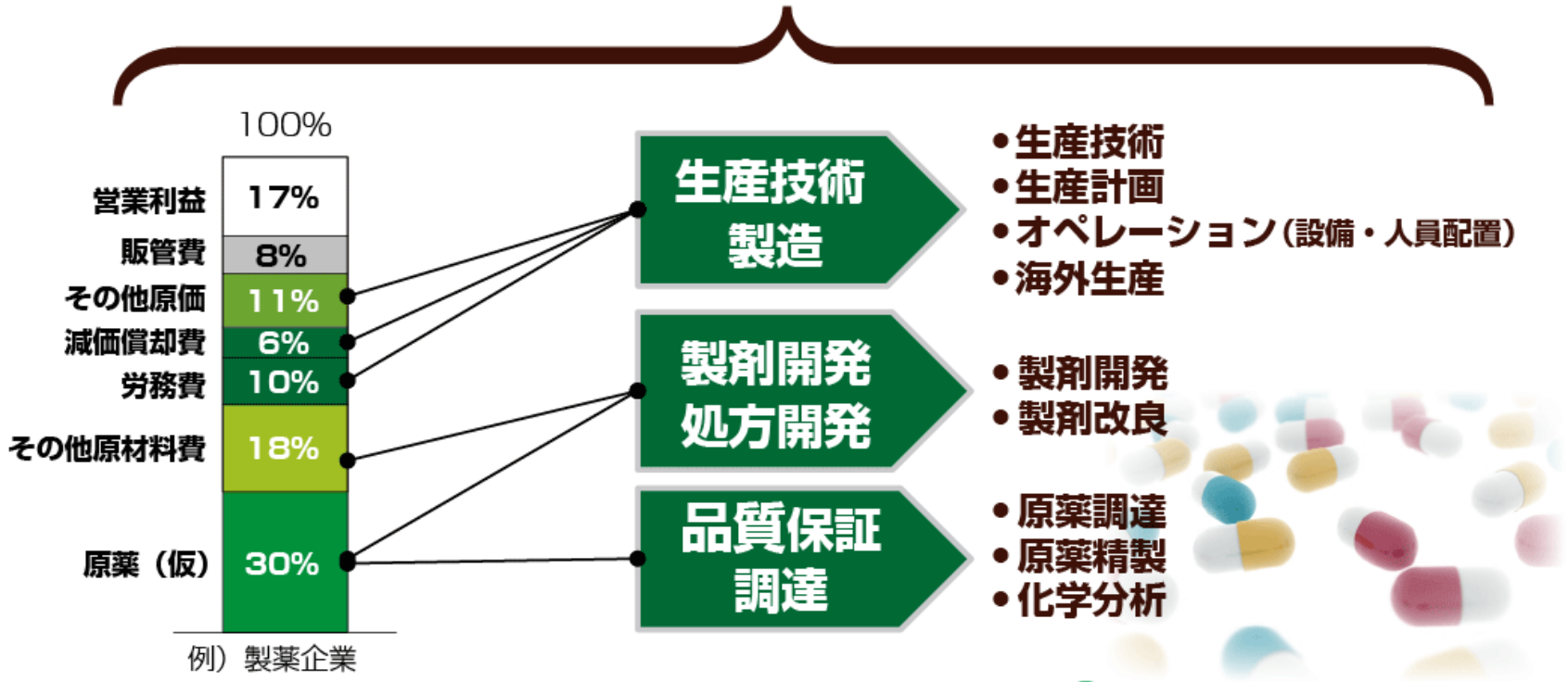
我々の置かれている環境、得意とする分野、今後の成長が期待できる業界などの要素から検討した結果、製薬事業が最も有力だと考えております。事業リスクを極力少なくした形で、医療・医薬品分野への参入を目指します。



医薬品と当社製造プロセスの類似点



医薬品のバリューチェーン



参入手段

長期収載品承継

企業買収

工場買収

自社工場

成長戦略

自社製品

- ・創薬はやらない
- ・長期収載品の収益改善
- ・長期収載品追加承継
- ・オーソライズドジェネリック（含抗体）
- ・スーパージェネリック

海外生産

- ・自社品のローコストオペレーション
- ・技術プラットフォームを利用した受託
- ・アウトイン受託工場

ESGへの取り組み

24 ESGへの取り組み

Environmental (環境)

- ・水上太陽光発電所稼働 (2015年10月～)
- ・植物工場稼働 (2015年11月～)
- ・省エネ生産設備の導入
- ・工場事務所照明のLED化

当社の水上太陽光発電設備 (1.2メガ)



Social (社会)

- ・事業所内保育所の開所と地域児童受入 (2015年12月～)
- ・地域小学生への工場見学、化学実験教室実施 (2014年11月～)
- ・地域イベントへの協賛と参加 (小川和紙マラソン2014年～、練馬こぶしまラソン 2015年～)
- ・地域への非常時対応太陽光発電設備寄付 (「紺綬褒章」受賞 2016年9月)
- ・社員ストレスチェックの早期適用 (2012年9月～)

Governance (企業統治)

- ・任意機関として報酬諮問委員会、指名諮問委員会設置 (報酬2009年12月～、指名2015年11月～)
- ・2名以上の社外取締役選任 (2015年6月～)
- ・複数年の譲渡制限付き株式による業績連動報酬制度導入 (2014年6月～)
- ・決算短信の早朝開示 (2017年1月～)
- ・株主総会議案の早期開示、招集通知の早期郵送 (2015年3月期～)

